

令和 6 年 2 月
東京都建設局

令和 5 年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」
東京都推薦作品の
国土交通省中央審査優秀賞受賞のお知らせ

国土交通省及び各都道府県では、毎年 6 月の土砂災害防止月間の行事の一環として、小・中学生を対象に、土砂災害防止に関する絵画・作文の募集を行っております。今年度、東京都においては絵画・作文合わせて計 94 点の応募がありました。

その作品の中から、東京都建設局長賞を受賞した絵画・作文について、国土交通省の実施する中央審査へ推薦したところ、下記の作品が優秀賞（事務次官賞）を受賞しましたのでお知らせします。

明日を守る私たちの行動

国立学園小学校 二年

田中 夢乃

私は、ようち園のころから気象にきょうみがあります。勉強をしていくと、気象のへんかはさいがいにもつながることを知りました。しゅう中ごう雨は毎年ふえていて、四十五年間で二倍になっています。線状こう水たいということばも新聞やニュースでよく見ます。気象よほう土さんが台風や大雨の時に、「土砂さいがいにちゅういしてください。」と言っていて、そんなに多く発生しているのかな、とぎもんに思いました。

調べてみると、年間一千けんもおきていて、土砂さいがいのきけんがある所は東京都だけで一万五千か所もあるとあって、おどろきました。日本の多くは山地で、火山も多く、もろくて崩れやすい特ちょうがあることを、気象科学かんで知りました。テレビであつという間に家や車が、土や岩やにごった水にのみこまれるのを見て、とてもこわいとかんじました。砂防えんていや、けいしや保全工などたくさんの対さくをしているけれど、時間やお金が多くかかります。でも、台風やしゅう中ごう雨は待つてくれません。

私がすむ町は、大雨がふったらどうなるんだろう。何に気をつければいいんだろう。と思い、いっしょにすむおばあちゃんにそうだんしました。おばあちゃんが

「町の特ちょうをすることから、はじめよう。」と言ってくれたので、市役所へ行ってハザードマップと土砂さいがいけいかい区いきマップをもらいました。見てみると、ひなん場所は家族で何度もかくにんしたことがあるので知っています。でも、バステいの近くに地区さいがい時待ひ所の協力のう地があることは、初めてしりました。また、私がバスで通学をする時に、より安全な道をとおることができるよう、家族全いで歩いてみました。一人ひとり

生活する場所も、くらしもちがうから、一人ひとり自分に合った命を守るじゅんびが大切なんだ、と気付きました。

また、私が空や雲を見て天気のへんかに気づくように、土砂さいがいにも前ぶれがあるとニュースで聞きました。土砂さいがいをうけた町の人がインタビューに、

「小さい川の水がふえて、小石がおちてきたり、山のほうでいつもとちがう音がしていた。」とこたえていました。いつもとちがうということもちゅういがひつようだとかんじました。

そして、なぜ日本に土砂さいがいがふえているのかを考えることも大切です。人が出しつづけている二酸化炭素をへらすことがさいがいの対さくにもなります。私は八さいですが、できることがあります。それは、地球温だん化を止めるために行動すること、それを周りの人に伝えることです。一人ひとりが行動を少しかえれば、さいがいはへつて、自然とともに安心なくらしが続いていくと思います。私は、一つ一つ行動していきます。